

# ONSA ニュース

No. 31-4

発行 2022 年 3 月 31 日

|  |    |
|--|----|
| 巻頭言 ー山口多賀司様を偲ぶー 元大阪ニュークリアサイエンス協会 会長 岸田哲二 | 1  |
| 山口多賀司副会長と ONSA のつながり ONSA 事務局            | 2  |
| 会員紹介 三菱電線 OB 速水弘之                        | 4  |
| 大阪府立大学 准教授 田中良晴                          | 6  |
| 開催記録                                     | 8  |
| ONSA からのご報告と案内                           | 10 |

## 巻頭言 ー山口多賀司様を偲ぶー

元大阪ニュークリアサイエンス協会会長 岸田哲二

山口様の訃報に接し深い悲しみと大きな喪失感で胸がいっぱいになりました。心からご冥福をお祈りするばかりであります。

山口様は大阪ニュークリアサイエンス協会の生みの親であり育ての親でもあります。日本経済が高度成長を経て学界、産業界が大きく発展を遂げるなかで、工業、農業、医療さらに文化財調査等多方面で放射線やアイソトープの利用が不可欠となった時代背景を受け昭和 59 年 4 月に当協会が設立されました。協会設立発起人として尽力され、設立後も協会の運営と発展のために指導的役割を果たされました。学界と産業界の密接な連携を常に気にしておられ、優れた研究を顕彰するための ONSA 賞を創設し、若い研究者を支援され、自ら浄財を寄付されていました。

業界全体の発展に多大な貢献を頂いた山口様のご逝去は誠に残念でなりません。賜りましたご厚情に深く感謝するとともに哀悼の意をささげます。

山口様は偉大な起業家でもあります。大東亜戦争で焼け野原になった日本の復興の流れのなかで、道路橋梁など公共インフラに加えいろいろなプラントや工場が次々に建設され、さらに建設計画も多数ありました。それら構造物の安全性を建設時のみならず長い供用期間中も担保する必要性を見通さ



山口多賀司副会長と旭日小綬章

れ、放射線を利用する非破壊検査のビジネスを立ち上げられました。“水と安全はただ”という社会通念が広がっていた逆風の中で大変な挑戦でありました。“安全の防人（さきもり）たらん”との強い信念を貫き艱難辛苦を乗り越え、今日の非破壊検査株式会社に育て上げられました。またこの間、非破壊検査業界を近代産業の一角として重要な地位に押し上げられました。知に聡く情に篤く気骨のある経営者として広く知られ多くの人々から尊敬されていました。私事になりますが原子力発電所や火力発電所の安全確保の基礎となる仕事を担っていただき、大変感謝しています。

当協会運営のお手伝いをさせて頂き、山口様にお会いする機会が増え、その時々新鮮で含蓄のあるお話を伺いました。

非破壊検査（株）が中国に進出するための話がほぼ纏まり会食が催され、当時の上海市長が同席していた時の話であります。戦争のことが話題になり市長が“極端な話だがもし一対一の相打ちになったら日本人が一人も居なくなっても中国人は十数億人残っている”と話したそうです。山口様は纏まりかけていた話をすべてキャンセルされました。その市長が江沢民であり、“あの人があんなに偉くなるとは思わなかった”と仰っていました。昨今の国際情勢を踏まえると、日本の政治家も企業経営者もこのような姿勢を大いに参考にして欲しいと思います。

我が国のエネルギー安全保障上原発の利用が必須であるとの意見を一貫してお持ちでした。この主旨で日刊工業新聞に意見広告を度々出されており、数年前に同様の意見を読売新聞に出された後にお会いしました。読売の読者から多数の賛同意見やコメントが寄せられ、反対、批判の意見はほんの僅かであった事と反響の大きさを喜びながら話される笑顔を今も鮮明に憶えています。

ベンチャーを大企業に育て業界の価値を高められただけにとどまらず、芸術や文化にも深く関わっておられました。特に童謡、唱歌、民謡など世代を超えて歌い継がれるべき“日本のこころ”の普及に務められ、これらを披露する合唱団の支援に大変力を入れておられました。青少年期を過ごされた群馬県に特別の想いを抱いておられ“名月赤城山”はとくにお好きなようでした。

台風一過の晩夏に頂戴したお手紙の冒頭に“秋来ぬと 目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる 藤原敏行作 日本に四季のあることを確認しホットした一日でした。”と記されていました。お人柄が偲ばれる一端でもあり、多くの人々に親しまれた由縁でもありましょう。

あらためまして、賜ったご厚情に感謝申し上げますとともに  
安らかに眠りください。

(合掌)

### 山口多賀司副会長と ONSA のつながり

ONSA 事務局

山口多賀司副会長が 2022 年 2 月 4 日に逝去されました。  
ここに生前のご厚情を深謝し、山口多賀司副会長と ONSA のつながりを振り返ります。

山口多賀司副会長は 1984 年 ONSA 設立を主導され、以後 38 年連続で副会長として運営を主導頂されました。ONSA 役職員でこの勤続記録を上回る者は皆無です。山口多賀司副会長の尽力がなければ、ONSA は存在してなかったかも知れません。

ONSA は山口多賀司副会長が中心となって「設立趣意書」を 14 名の連名でまとめて、産官学の連携のもと、1984（昭和 59）年 4 月に大阪国際ホテルで岸昌大阪府知事をはじめ大阪府立放射線中央